

あの日を未来へ

谷山中学校 三年 岡村 萌乃夏

「八月十五日。」この日の七十五年前はちょうど戦争が終わった日。日本が負けを認めた日。世界で唯一原子爆弾を落とされた国でもある日本だからこそ、我々日本人はこの日を忘れてはいけないと思います。胸に刻みつけ、いつまでもずっと後世に伝えていかなければならないのです。私達は曾祖父母が戦争体験者で、祖父母は戦後生まれなので被爆第四世代と言われるそうです。この前、校長先生から聞いた話ですごく衝撃を受けました。ある一部の調査で被爆第四世代に終戦の日を聞いたところ半数の人が知らないと答えたと言っていました。これは少しずつ戦争の記憶が薄れてきているということだと思います。同じ世代として、すごく残念なことだと思います。しかし、私も戦争体験者ではないから、あまり身近に感じられないという気持ちの方が大きいです。

今年の五月、修学旅行で長崎を訪れ平和について学ぶ機会があり、原爆資料館や平和記念公園に行きました。そこには、戦争の重苦しい雰囲気と共に実際に使われていたものだったり、遺書だったり、たくさん展示物がありました。展示物をみている人の中には、涙ぐんだり、直視できなかつたりとそんな様子を覚えていきます。私自身も一つ一つが感慨深く、その世界観に飲み込まれるような勢いでみていました。私が展示物よりも印象に残っているのは、被爆者の方の話です。被爆者の方達が少なくなっている中で、直接話を聞けたことはとても貴重な時間だったと思います。生々しい戦争体験談はより現実的で、聞いているだけでも場面が想像できるような感じでした。私だったら二度と思ひ出したくないことなので人前で話そうとはしないだろうと思ひました。しかし、その被爆者の方は、自分が伝えることで二度と戦争がおこらないようにするために活動し

ていました。また、外国の人達にも戦争のことを少しでも分かってほしいということ、自ら英語で話をするといいことをしてました。いつか、国と国を結びつけるような人になりたいと思います。自分には何ができるのかを探してみることが最初の第一歩です。

七十五年後の今、鹿児島でも多くの外国の人を見るようになったと感じます。これは、他国との関係が七十五年の間でだいぶ回復されたということだと思います。当たり前のようになっていて、それがたさを感じにくくなりましたが、こうして国と国とが交流をする機会はとても大切なことであり、ずっと続けていくべきだと思います。そうしたら、戦争のような暗い過去を繰り返すことはなくなるはずだからです。先日、私達の学校ではサプライズイベントが行われました。メディアにもとりあげられ、テレビでも放送されました。そのサプライズとは、ALTの先生が任期を終えて祖国のアメリカに帰ることになったので、最後は笑顔で送り出したと生徒全体でダンスと人文字を披露したことです。先生が感動して泣いている姿を見ると、約二週間前から少しずつ準備していたので成功してよかったなと思いました。私は、英語だけではなくいろいろなことをその先生から学んだように感じます。話す言葉が違っても、いづれどこか気持ちを通じ合っている、そんな気にさせてくれました。私は、これからもっと世界のことを知っていききたいです。たくさんこのことに触れていきたいです。こう思わせてくれたALTの先生に感謝しています。

私達は国籍や見た目目で勝手に区別しているんな偏見をもつてしまふときがあるかもしれせん。しかし、地球に住んでいる一人として考えると皆同じ人間なのです。私はそのことをふまえて助け合って生きていく社会を実現させたいです。